

後漢政治制度の研究



[后汉政治制度的研究 下载链接1](#)

著者:渡邊 将智

出版者:早稻田大学出版部

出版时间:2014-3

装帧:精装

isbn:9784657147011

現代中国の政治体制は、前近代から続く歴史の流れのなかで、辛亥革命や国共内戦を経て次第に形成されてきた。故に、前近代中国の皇帝支配体制に目を向けて、その実態を把握することは、現代の政治体制の形成過程とその内容をより深く理解し、かつ

将来的な課題に対応していくための基盤として必要不可欠である。本書では、前近代中国の皇帝支配体制の実態を明らかにすることを目的に、後漢期の政治制度の構造を重点的に論考する。

作者介绍:

1978年千葉県生まれ。現職、早稲田大学長江流域文化研究所招聘研究員、大東文化大学文学部非常勤講師。専門は漢代政治制度史(官制史)、後漢政治史。2001年二松学舎大学文学部中国文学科卒業。2010年早稲田大学大学院文学研究科史学(東洋史)専攻博士後期課程修了、博士(文学)取得。2007~2008年大東文化大学人文科学研究所兼任研究員(本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです)

目录: 序 章 漢王朝の皇帝支配体制と後漢時代1

はじめに

第一節 先行研究の展開

一 黎明期

二 繙承期

三 再検討期

四 先学の所論の要点

第二節 残された検討課題

第三節 本書の構成

第一章 後漢における宦官の制度的基盤と尚書台

はじめに

第一節 宦官の制度的基盤と「省尚書事」

第二節 「省尚書事」の再検討

一 「漢家の舊典」の内容

二 宣帝期以降の前漢の侍中・中常侍と「省尚書事」

第三節 後漢の中常侍と「顧問應對」

一 「顧問應對」の内容

二 後漢洛陽城の基本構造と諸官の発言の場

第四節 宦官の政治活動とその制度的基盤

おわりに

第二章 後漢における外戚の制度的基盤と尚書台——梁冀政権を事例として

はじめに

第一節 「跋扈將軍」の権勢

第二節 桓帝の擁立と「錄尚書事」

一 「錄尚書事」と「領尚書事」

二 「錄尚書事」と「師傅の官」

三 「錄尚書事」の内容

第三節 元嘉元年の殊典賜与と「平尚書事」

一 「平尚書事」の内容

二 「平尚書事」と殊典

第四節 梁冀政権の崩壊とその制度的基盤

第五節 外戚の制度的基盤

おわりに

第三章 「三公形骸化説」の再検討——『昌言』法誠篇の解釈をめぐって

はじめに

第一節 「三公形骸化説」と『昌言』法誠篇

第二節 法誠篇の再検討

一 「臺閣」の解釈 [I]

二 「臺閣」の解釈 [II]

三 「臺閣」の解釈 [III]

四 「臺閣」の解釈 [IV]

五 法誠篇の解釈

第三節 三公の職務と法誠篇

第四節 三公に対する皇帝の認識

おわりに

第四章 後漢における公府・將軍府と府主

はじめに

第一節 公府・將軍府による政策案の作成・審議

一 政策案の審議と朝堂・百官朝会殿

二 政策案の作成と官衙・百官朝会殿

第二節 三公府による政策案の事前審査

第三節 尚書台と政策案の作成・審議の関係

一 政策案の審議との関係

二 政策案の作成との関係

第四節 公府・將軍府による政策案の作成・審議の淵源

一 前漢武帝期における政策案の作成・審議

二 霍氏政権期における政策案の作成・審議

三 霍氏誅滅後における政策案の作成・審議

第五節 皇帝の決裁と府主の役割

おわりに

第五章 政策形成と文書伝達——後漢尚書台の機能をめぐって

はじめに

第一節 上奏文の伝達

一 上奏文の作成と上奏

二 上奏文の伝達と尚書台

第二節 上奏文の決裁と詔の伝達

一 上奏文の審議と決裁

二 決裁の授受と尚書台の官衙の位置 ¥

三 詔の起草と伝達

第三節 政策形成・文書伝達の復元

第四節 後漢における尚書台の機能

おわりに

第六章 後漢洛陽城における皇帝・諸官の政治空間

はじめに

第一節 皇帝・皇太后の執務場所と生活空間

第二節 諸官の執務場所とその役割

一 諸官の執務場所と後漢洛陽城

二 侍中・中常侍・大夫・議郎の役割

第三節 後漢政治制度の基本構造

第四節 後漢政治制度の形成過程

一 武帝期以降の長安城と諸官の執務場所

二 側近官の縮小再編成と政治制度の改編

おわりに

第七章 政治空間よりみた後漢の外戚輔政——後漢皇帝支配体制の限界をめぐって

はじめに

第一節 外戚と「輔政」

第二節 内戚輔政から外戚輔政へ

一 内戚輔政の挫折

二 外戚輔政の萌芽

第三節 外戚政権と政治空間

一 窯氏政権と後漢洛陽城

二 窯氏誅滅と「改編」

三 「改編」以後の外戚政権

(1) 鄧氏政権

[II] 梁氏政権

[III] 「改編」以後の外戚政権と後漢洛陽城

第四節 後漢における皇帝支配体制の限界

一 外戚の就任官とその執務場所の変遷

二 後漢皇帝支配体制とその限界

おわりに

終章 漢王朝の皇帝支配体制の特色とその展開

はじめに

第一節 本書で検証された内容

一 宦官の制度的基盤について

二 外戚の制度的基盤について

三 「三公形骸化説」について

四 公府・將軍府の機能と府主の役割について

五 尚書台の機能について

六 後漢の政治制度の基本構造とその形成過程について

七 後漢の皇帝支配体制の限界について

第二節 漢王朝の皇帝支配体制の特色と曹魏における継承・発展

補論 後漢における「内朝官」の解体と九卿の再編——少府・光禄勲を中心として
はじめに

第一節 「内朝官」と「職屬」・「文屬」

第二節 後漢洛陽城と少府の属官

一 少府に「職屬」する属官とその執務場所

二 少府に「文屬」する属官とその執務場所

[I] 士人専任の属官

[II] 宦官専任の属官

第三節 後漢洛陽城と光禄勲の属官

一 光禄勲に「職屬」する属官とその執務場所

二 光禄勲に「文屬」する属官とその執務場所

第四節 「職屬」・「文屬」の区別とその基準

第五節 「内朝官」の改編とその制度的な背景

おわりに

引用参考文献一覧

初出一覧

あとがき

英文要旨

索引

• • • • • (收起)

[後漢政治制度の研究 下载链接1](#)

标签

秦汉史

渡边将智

制度史

日本汉学

後漢史

后汉政治制度の研究

渡邊將智

政治制度

评论

近年来最精彩的东汉史研究论著之一，线索清晰，从“皇帝支配体制”出发，关于三公、宦官有不少颇具新意的论述。不过关于外戚权力，外戚与宦官关系的论述还有不少可以补充的地方。本书第七章已经有中译文，但个人感觉这本书还是有整本翻译成中文的价值的。

[後漢政治制度の研究 下载链接1](#)

书评

[後漢政治制度の研究 下载链接1](#)